

豚インフルエンザ情報 ①

(2009年4月27日)

マスコミの報道でご存じのとおり、豚インフルエンザのある種がヒト型へ変化した可能性が大いに懸念されています。

感染の広まりの大きさは、4月24日の最初の第一報では、メキシコで死者68名、患者数約1000名、アメリカで患者8名でしたが、26日夜半までに患者数（感染疑いを含む）はメキシコで1324名（死者81名）、アメリカ19名、イギリス1名、フランス4名、スペイン3名、ニュージーランド25名、イスラエル1名と多くの感染者が明らかにされてきています。27日朝の段階では日本、シンガポールでは感染者は見つかっていません。日本では25日に既に、空港のイミグレーションに体温スキャナーが設置されました。シンガポールでも26日午後11時にアメリカ、メキシコからの便からの乗客に対して体温スキャナー装置による体温検査を実施し始めました。27日朝8時からはずべての到着客に対し、体温スキャナー装置による体温計測が始められています。

世界保健機構（WHO）はまだ、フェーズ（感染の拡大、深刻度の指標）をあげていませんが、数日中に再検討されることになっています。

対策としては、まず、感染者が出ている国には渡航しないことが最も安全です。どうしても渡航する必要がある場合には、現地の新しい情報に気を配ってください。予防は、うがい、手洗い、マスクの着用などですが、いずれも完全ではありませんので、人ごみは避けるようにして、体力の温存に努めて下さい。もし、感染したと思ったら、すぐに自身でマスクを着用し、現地の医療施設に連絡をとってください。

シンガポール国内においては、感染者が出ている国から帰国された方で、風邪のような症状のある方は、**すぐにマスクを装着**して医療機関に**電話連絡**して指示を受けて下さい。**あわてて、医療機関に駆け込むことはくれぐれもご遠慮ください**。そうされますと、もし、本当に感染者だった場合には医療機関で感染が爆発的に広がることになり、その医療機関は一定期間、閉鎖に追い込まれることもあり、保健衛生上、大変な損失となりますのでご注意ください。

皆様一人一人の御努力が、感染の広まりを抑える大きな力となります。皆で力を合わせてこの難局を乗り切りましょう！